

2023.2.16.

## 会員研修委員会卓話 テーマ「温故知新」

### 会員研修委員会

皆様こんにちは、会員研修委員会委員長の篠田でございます。  
本日は、貴重な例会の時間を頂きありがとうございます。

まず、私のロータリークラブでの経歴ですが、2006年7月1日津留会長年度に入会させて頂き、ロータリー所属年数は、16年7か月となります。2013-2014年度創立50周年の時に泉水会長のもと幹事を仰せつかり、2019-2020年度に会長職を現在の福原会長に幹事をお願いし努めました。その後は、一会員として月に2回の例会に参加しロータリーを楽しんでいます。ですが、ただ参加するだけでは、緊張感がありません。今日は久しぶりに例会でマイクの前に立ち緊張感を味わいたいと思います。

今回の例会テーマは「温故知新」と題しているので・・・

本来ならば、1905年シカゴでポール・ハリスが友人4人と共に親睦と互助を目的としてロータリークラブを発足させ、その後、日本では、1920年に米山梅吉等が日本に初の東京ロータリークラブを創立しました。2020年、コロナ禍ではありましたが、100周年を迎えています。

市原ロータリークラブは、市原市全域を区域として1964年6月13日に承認され、千葉ロータリークラブをスポンサークラブとして、初代 宮吉長門会長他チャーターメンバー29名で創立しました。

現会員では、23代会長 三木会員、29代会長 白鳥会員、37代会長 小池会員、38代会長 赤星会員、39代会長 川島会員、41代会長 始関会員、47代会長 西村美和子会員、51代会長 宮地会員、52代会長 万崎会員、53代会長 西村会員、54代会長 山本会員、55代会長 長田会員、56代会長 篠田、57代会長 本郷会員、58代会長 平野会員、現59代 福原会長です。15名のパスト会長（会長経験者）が居て、会員数も2月現在75名です。そして次年度は、山崎会長エレクトのもと、創立60周年を迎えます。

ロータリークラブは、全世界を34のゾーンに分類し、千葉県2790地区は、第2ゾーン（13地区集合体）、2790地区には、現在82クラブあり2022-2023.7/1現在2623名の会員がいます。そして2790地区を14のグループに分類されていて、市原ロータリークラブは、その中で第4グループに属しています。第4グループとは、千葉南、市原、千葉港、市原中央、千葉北、千葉緑RCと6クラブの集合体です。

この6クラブは、合同幹事会等で多くの交流が有ります。

明日のインターシティーミーティングもこのグループ単位で開催されます。

ここから、

ロータリーの基本的な重要情報として

・「国際ロータリーの戦略計画」ロータリーがこれからもダイナミックな組織であり続け世界中の地域社会に貢献していくための指針。

・「ロータリーのビジョン声明」私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。

・「ロータリーの戦略的優先事項と目的」より大きなインパクトをもたらす。参加者の基盤を広げる。参加者の積極的なかわりを促す。適応力を高める。

・「ロータリーの中核的価値観」親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ。

・「四つのテスト」これ大好きです。

・「ロータリーの目的」意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体例第1～4

・「五大奉仕部門」クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕。

・「ロータリークラブの目的」ロータリーの目的の達成を目指す。

・「青少年と接する際の行動規範に関する声明」国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加するすべての青少年のために安全な環境をつくり、これを維持するよう努める。

・「国際ロータリーの標語」超我の奉仕及び最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。

・「国際ロータリーの使命」職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて、人々に奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進する事である。

・「ロータリー財団の標語」世界でよことをしよう。

・「ロータリー財団の使命」ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることである。

そして、

・市原ロータリークラブの組織と運営として、目的と定款・細則が有ります。

クラブ活動計画書に詳しく書いてあります。

一気にしゃべりましたが、とても暗記は出来ないし、右から左で頭に残りません。

かしこまって、会員研修について話そうと思うと、多くの皆さんは知らない言葉のオンパレードになると思います。読んでいる自分も同じです。それでも良いのです。

冒頭、今回の例会テーマは「温故知新」（先輩会員の皆様は、前に学んだロータリーの歴史や事柄をもう一度調べたり考えたりして、新たなロータリーの知識を見い出すきっかけとして頂き、入会年数の浅い会員の皆様は、ロータリーの生い立ちから話をし、今自分が入会している市原ロータリークラブとは何かを知るきっかけとする為）と題しているので、と申しましたが、ロータリークラブ発足118年を会員研修として1度や2度いや3年、

4年、と会員歴を積んでもなかなか理解できません。

そこで、今回の卓話でまず参考にした「ロータリー入門書」2019～2022年度版の、はじめがきを読ませてください。

かつてコン・ウェイ国際ロータリーRI会長は「あなたはロータリアンですか、それとも只の会員ですか」と問いかけています。こんな皮肉な質問が出たのは、会員の数は増加したその割には真のロータリアンが増えていないと考えたからではないでしょうか。

私が新米のころ、先輩にいろいろ質問すると「だんだんわかるよ」と言うだけの答えで、ロータリーがなにであるか、なかなか分かりませんでした。そんな訳ですから、ガバナーノミニーの指名を受けたときは、文字通り慌ててしまい、青くなって先輩に聞いて回り、また頭痛鉢巻で定款・細則と取り組まなければなりません。そんなことで私は私なりのロータリー観を持つことが出来ましたが、忙しい会員諸君にこれを求めても無理な話でもあり「だんだんに分かるよ」では、せっかく入会しても嫌気がさして例会欠席、ついには退会という破目にもなりかねないと案じられます。あえて「ロータリー入門書」などと言うものを書いてみる気になった所以であります。「入門」はすべからず正門から堂々と入るべきで、裏門からでは困ります。あるいは私がこれが正門だと信じていても、ベテランロータリアンや、ロータリー学者の方々から見たら脇門くらいの所かもしれません。しかし、富士登山にも吉田口も須走口もあるように、迷わずその道を進めば、やがてご来光が仰げるはず。どうぞ私の後をついてきてください。なお、古い会員の方には失礼かもしれませんが「もう一度見直そう」というターゲットも出ている時期です。この「入門書」がそんな役にも立てば一層うれしいと思います。(1972年7月)

著者 前原勝樹(まえはらかつたか)さんの言葉です。

皆さん、安心してください。51年前からロータリークラブについて質問すると、その答えは「だんだんわかるよ」です。逆に考えれば分からないのが当たり前です。しかしはじめがきにあるように、せっかく入会したのに会費も払っているのに例会を欠席したり、ついには退会とはあまりにももったいないです。淡粋さんの美味しい食事を食べながら、経験豊富な先輩会員に自分の悩みを相談したり、先輩会員からは、息子と同じ年代の考えを聞く機会にもなるでしょう。同僚会員との話でも刺激を受けるでしょう。ロータリーの例会は平等です。競争相手や警戒する人もいません。上司や部下もいません。例会の場は、仕事の忙しさや緊張の連続で日々過ごしている中で、仲間との語りいで緊張から解放され皆さんの心の中にある善意を発掘し、その湧きあがった善意を奉仕活動という方向づけをし、これを実践に移す「一歩踏み出す勇気」を与える様な例会にしましょう。「進んで参加しましょう。」市原ロータリークラブの先輩会員の後をついていき、皆様なりのご来光を市原ロータリークラブを通して仰ぎましょう。

そこで入会間もない会員の皆様に私なりに16年7か月退会もせずに、なぜ今ここでお話させて頂いているかをお話させていただきます。「出席するのが楽しかった」

16年7か月前、2006年7月1日に始関会員、行木会員のご紹介で市原ロータリークラブへ入会しました。その当時の私は、努める会社が倒産、転職した会社が倒産、倒産にまた倒産と4回倒産を経験しました。勤めていた会社は倒産しましたが、建設業界のサラリーマンとして働いていた際の13年間に同業界の人脈は、ある程度出来ていたので33才の時に無理を承知で独立開業をしました。右も左も分からない若造が、独立し3年余り。勢いで仕事をしていましたが、周りを見ると仕事関係の知り合いしかいない状態。それもそのはず、木更津の山の中、馬来田出身で、最初に就職したのが市原市、市原には同級生も知り合いも居ない状態でした。その当時、父親も亡くしていたので、仕事の相談はもちろん、愚痴を言う仲間もいませんでした。そんな時に考えたのが、青年会議所に入って仕事以外の仲間を作りたいと思いました。そして何処に声を掛けて良いかもわからずに、なぜかあちらこちらの飲み屋で青年会議所に入りたいと言っていました。3年くらい。

そんな時に市原ロータリークラブの当時会員だった行木さんに声を掛けられ、市原ロータリークラブに誘われました。その際、始関会員からもわざわざお越し頂き誘っていただきました。自分の中では、「ロータリークラブ？地元の名士の集まりで自分が入れる様な団体ではない。敷居が高すぎる。と世間知らずの私でも思いましたが、入るには全会員の賛否確認があり、一人でも反対があれば入れませんと言われました。それが逆に作用し「誘われた時がタイミング、反対されれば入会できない。だったら思い切って申し込んでみよう」と思いました。結果は、当時の会員全員の賛成を頂き36才の時に入会させて頂きました。

今思えば・・・

入会してからは、例会の時間は仕事とは違う緊張感を味わいながら何が何だか分からいけど出席し続けました。当時は白鳥ガバナー年度、市原ロータリークラブは、ガバナー輩出クラブとして忙しい時期でした。例会に参加して昼ご飯を食べている時も例会中も聞いた事の無いロータリー用語、地区大会に向けて委員会が盛んに行われていた記憶があります。そんな時も出席し続けました。とにかく出席しました。

なぜ、そんなに出席したか、それはロータリーに出席する為に時間を作るのは大変でしたが、それ以上に普段は作業服にヘルメットで現場にいたので、たまにスーツを着て例会に出席することが楽しかった。・・・何より出席して毎週顔を合わせて居ると同年代の会員に刺激を受け、先輩の人脈の広さと振る舞いにも刺激を受けたのを覚えています。

不思議なことに、市原ロータリークラブに入会する前にあんなに「JCに入りたい」と事あるごとに言っていたのに、入会2年後に上野会員が入会すると初対面の挨拶の時に、「ところで、歳は何歳？」と聞かれ「38才です」と言うと「まだ、間に合うな！」の一言で翌年の1月に市原青年会議所に入会していました。ちなみに副委員長磯貝会員と私は同期で

す。青木会員も同期です。たった2年間のJ C在籍でしたが、一気に市原市に溶け込めた様な気がします。・・・私がJ Cに入りたいと思ってから5年、上野会員に会ってから直ぐです。・・・その時に人の繋がりを実感しました。まさか自分がR Cに入会後にJ Cにも入会するとは思っていませんでしたが、先にR Cに入会していたので、NOと言わないロータリアンを発揮してしまいました。今では野口会員がR C入会後にJ Cにも入会し頑張っています。これも繋がりを感じます。

近年の市原ロータリークラブが会員増強に特に成功し多くの新入会員を迎えました。そこで今回の会員研修委員会では、活動方針、計画を発表していますが、ロータリークラブとは何かを考える前にとにかく例会に出席、委員会に参加してみてください。優しい先輩会員が新入会員の皆様と語り合いたくてうずうずしています。コロナ禍以降、炉辺会談、ファイヤーサイドミーティングを自粛していましたが、体調に留意しながらまた夜の集まりも始めましょう。

ロータリークラブは、良い人間関係を築くことによって、より良い地域社会を作る為に貢献する事を目的とし、その良い人間関係を築く場として例会や委員会が有ります。その中で、親睦が生まれ、何か良いことをしよう！と思った時に多くの仲間と共に実践に移すことが出来ます。例会の一時間は楽しみながら訓練を受けられるロータリー独特の集会だと思います。今でも「ロータリーって何なの？」聞かれたら「だんだんわかるよ」と言ってしまいますが、決してロータリーは無理強いはしません。クラブの理事・役員についても委員会の委員から始まり委員長。委員長を何度か経験してから役員、幹事を経験してから会長と段階を踏んで進みます。その時初めて委員長とは？幹事とは？会長とは？と準備に入っても間に合います。「だんだんわかってきます」。他のクラブでは・・・

会員研修委員会を中心に新入会員の入会後のフォローやオリエンテーションの実施。会員向けの研修会を例会または、炉辺会談を通じて実施したいと思っていますが、限られた例会数の中で時間を頂くのも難しいので、メンバーが数名集まれば、そこでロータリーの話をし、そのロータリー談義が会員研修です。今年度の会員研修委員会の委員には多くのバスト会長がいますので、是非その集まりに呼んでください。「集まればそこが会員研修」です。

その他、地区ロータリー情報の提供やクラブの活動ベースとなるR I情報の提供もします。

『市原ロータリークラブの力あってこそその個々のメンバーの力であり、そして個々のメンバーの力あってこそその市原ロータリークラブの力』になります。

この後は、会員研修委員会副委員長 磯貝会員に具体的なテーマごとに「温故知新大作戦！」と題して、話して頂きます。

まとまりの無い話になりましたが、ご静聴ありがとうございました。